

教育目標		すこやかでよく遊ぶ、心豊かな子供の育成 ～子供の夢がかなう幼稚園～						
保育の視点		心豊かに自ら遊び込む子どもを目指して ～『自立』を支える教師の援助～						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	教育課程	・教育課程の再編成	・幼小接続の視点からの教育課程の確認及び検証を行う。	・職員で意見を出し合い、子どもの姿を１０の姿に分け、確認検証をする。	A	・1学期～2学期にかけて、学年ごとに子供の姿から１０の姿に分けることができた。しかし、伊丹市全園共通の教育課程のため、子供や園の実態を合わない点も出てきている。伊丹市全園共通の教育課程と自園の実態をどうあわせながら進めていくかが今後の課題である。	・職員会の中で、子供の姿の話をしながら、学期ごと、学年ごとに見直し、伊丹市全園共通の教育課程と照らし合わせながら自園の教育課程を検討していく。	小学校とのしぜんな交流が図れている。 今後も架け橋期の接続をめざし、保幼小中がつつながるよう教育計画を立てていかれるとよい。 研究においては、共同研究園との研究や研修の成果が子供の遊び込む姿となつてあらわれている。
	研究推進	・子どもの豊かな心を育む保育の実践	・日々の保育から遊び込む子どもの心の動きを捉え、その子どもを支えるための環境構成のポイントを探る。	・学期に２回程度事例研究を行い、環境の構成（人的・物的を含めた）のポイントについて学び合う。 ・共同研究園とともに研究テーマにせまっていけるよう、園内研究会や共同研修会などを計画的に推進する。 ・「子どもは幼稚園でやりたい遊びを見つけ、存分に遊んでいる」の保護者アンケートのＡＢ評価が８０％になるようにする。		・保護者アンケートでは、AB合わせて90%以上が子供は幼稚園でやりたい遊びを見つけ存分に遊んでいると捉えられており、子供のやりたい気持ちをかなえらる環境構成を工夫する取り組みが、遊び込む姿につながっていると考えられる。 ・共同研究園と講師を招聘した園内研を計画的に実施し、子供の育ちを学ぶことができた。また、共同研究園で、指標の見直しを行い、職員全員で話し合い考えることで、研究のペースを共通理解しながら進めることができた。	・共同研究園とともに引き続き「遊び込む子どもの育成」というテーマで研究を進め、遊び込むための子供の姿と環境構成のポイントを整理できるよう、エピソードから抽出していく。 ・保護者にもクラスだよりやgoogle 配信や懇談会や掲示などを通して子どもの成長を適宜伝えていく。	
豊かな心・健やかな体	健康教育	・基本的生活習慣の確立	・子どもの実態を把握し、子どもが必要感をもって自ら身体を大切にしようとする姿になるよう、担任と養護教諭が連携し、毎月保健指導（ほけんの話）を行う。	・子どもが自分の身体に関心を持ち、大切にしようとする気持ちを育む保育について取り組む。「子どもは、基本的な生活習慣が身につくように取り組んでいる」の保護者アンケートの AB 評価が８０％以上になるようにする。	B	・「子どもは、基本的な生活習慣が身につくように取り組んでいる」の保護者アンケートの AB 評価が８０％以上の評価を得た。	・自立や基本的な生活習慣の定着に向けて園と家庭が連携して子どもを支えていくために、引き続き保護者へ個別に指導方法や取り組みを丁寧に伝えていく。	基本的な生活習慣を身に付けることは大切である。保護者への啓発は難しい面もあるが、げんきカレンダーを通して保護者啓発に努めている。 継続してほしい。
		・感染症予防に努める	・生活習慣の定着に向けて家庭でも意識して取り組むことができるよう、保健指導の内容を基にしたげんきカレンダーを実施していく。	・毎月、家庭と連携を取りながらげんきカレンダーに取り組んでいる。		・生活習慣の定着に向けて課題のある子どもの実態を職員で共有し、連携して個別指導を行うことができ、また、ほけんの話の内容に取り入れることができた。	・ほけんの話は視覚支援教材を用いてわかりやすく伝える工夫をし、必要に応じて年間計画を見直して子どもの健康課題に合わせた内容を検討していく必要がある。	
	人権教育	・人との関わりや伝え合いに視点を置いた保育実践	・子ども、保護者ともに互いに認め合える人間関係を築くことができるよう園が拠点となつて呼びかけていく。	・子どもが日々の生活の中で周りの人から愛されていることや自分の気持ちや友達の違いなどを振り返り気付く機会をもつ。	B	・日々の保育の中で１人１人が大切な存在であることが感じられるようにしてきた。また、各月の誕生会では保護者から子どもに向けて思いを伝える時間を持ち、自分が大切にされている、愛されていることを感じる事ができた。その反面、欠席が多く誕生会に参加しない保護者もあり、家庭によって差があることが課題である。	・今後も一人一人を大切に保育に努められるよう、教師間で共通理解を図る。また、誕生会のあり方については子供や保護者の実態等を踏まえ、会の進め方や保護者の参加の仕方について、検討していく。	今後も保護者研修や懇談会を工夫し、一人一人を大切にする保育を進めていただきたい。 飼育栽培活動、動植物とのふれあいがいの大切さに気付く機会となっている。
	特別支援教育	・子ども一人ひとりの特性に応じた保育の実践	・幼児理解に努め、子ども同士のつながりや一人一人の育ちにつながるよう支援していく。	・子どもが日々の生活の中で周りの人から愛されていることや自分の気持ちや友達の違いなどを振り返り気付く機会をもつ。		・季節に合わせて花や野菜の栽培をし、生長を楽しみにし、収穫を喜んでいた。	・書面研修や学級懇談会で語り合うことで、子育てや保育の中での気付きがあった。今後も研修や懇談会の場をもち、理解を深めていけるよう努めていく。	
			・花や野菜の生長や身近な生き物の命に思いを寄せられるよう、環境を整え収穫の喜びや命の尊さ等を感じられるようにする。	・子どもが日々の生活の中で周りの人から愛されていることや自分の気持ちや友達の違いなどを振り返り気付く機会をもつ。	A	・飼育については各クラスで飼っている生き物の世話を通して命について考える機会をもつことができた。うさぎの世話は子供が直接かかわることが少なかった。	・飼育、栽培活動において、準備の段階から植物の成長や生き物の命の大切さに気付いて幼児自らが行動したくなるように計画的に保育に取り入れていく。	拠点園として、にじいろ保育について、他園へ説明会・見学会を開催し、ねらい等を知らせることができた。しかし、１度参加した園は継続的に参加されるが、新規の園への啓発の工夫が必要で
			・「自分の体は自分で守る」ことが意識できるよう、視覚的教材等を活用・掲示し、園児が自ら健康について興味関心をもちながら、生活習慣の自立につながるよう努めていく。	・毎月、実施するほけんの話の内容についてホームページ等に掲載する。		・「子どもは自ら自分の身体や健康について意識しながら行動することができている」の保護者アンケートの AB の評価が77%と80%に満たなかったが、「子どもは、基本的な生活習慣が身につくように取り組んでいる」の結果は80%を超えていることから、手洗いうがいなど習慣は身につけているが、健康に過ごすための行動として結びついていないと考えられる。	・子どもたちが継続して意識し、健康に過ごすために必要感をもって行動できるよう、ほけんの話で使用した視覚教材など園内に掲示していく。	

